

薬学実践英語 1

責任者・コーディネーター	生体防御学分野 白石 博久 特任教授		
担当講座・学科(分野)	外国語学科英語分野、創薬有機化学分野、臨床医化学分野、薬物代謝動態学分野、生体防御学分野		
対象学年	2	区分・時間数	講義 18時間
期間	後期		
単位数	1単位		

・学習方針（講義概要等）

薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実践的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって英語による学習を可能とする素地を養う。

・教育成果（アウトカム）

薬学を中心とした自然科学の分野で必要とされる基礎的・専門的な知識や技能を学ぶことにより、英語ニュースや英語論文に親しみ、医薬学関連の最新情報の収集意欲や英語を用いた表現意欲を高めることができる。
(ディプロマ・ポリシー：5,7,9)

・到達目標（SBO）

1. 教材中にでてくる薬学関連の英文を読み、その内容を説明できる。(☆)
2. 教材中にでてくる薬学関連の英文を聞いて、その内容を説明できる。(☆)
3. 教材中で使われた語彙を列挙できる。(☆)
4. 教材で習得した語彙を用いて、簡単な文章を書くことができる。(☆)
5. 英語論文の構成を理解し、内容を説明できる。(☆)

・講義日程

(矢) 西 106 1-F 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
9/16	金	3	臨床医化学分野	大橋 一晶 准教授	<p>薬学関連英語教材を使って専門用語・熟語を学ぶ。生化学関連の英文読解。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教材中にでてくる薬学関連の英文を読み、その内容を説明できる。(☆) 2. 教材中にでてくる薬学関連の英文を聞いて、その内容を説明できる。(☆) 3. 教材中で使われた語彙を列挙できる。(☆) <p>【対話・議論型授業】 事前学習：微生物学ピロリ菌の項目の復習。</p>

					事後学習：講義プリントを見直し授業内容を復習すること。
9/27	火	3	臨床医化学分野	大橋 一晶 准教授	薬学関連英語教材を使って専門用語・熟語を学ぶ。生化学関連の英文読解。 1. 教材中にでてくる薬学関連の英文を読み、その内容を説明できる。(☆) 2. 教材中にでてくる薬学関連の英文を聞いて、その内容を説明できる。(☆) 3. 教材中で使われた語彙を列挙できる。(☆) 【対話・議論型授業】 事前学習：配布プリントの内容の把握。 事後学習：講義プリントを見直し授業内容を復習すること。
10/7	金	4	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	薬局での患者対応を想定した英語教材を使って専門用語・熟語を学ぶ。 1. 教材中にでてくる薬学関連の英文を読み、その内容を説明できる。(☆) 2. 教材中にでてくる薬の投薬方法や副作用等について英文で説明できる。(☆) 3. 教材中で使われた語彙を列挙できる。(☆) 【対話・議論型授業】 事前学習：事前に連絡した「くすり」について調べておくこと。 事後学習：授業内容を復習すること。
10/14	金	4	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	薬局での患者対応を想定した英語教材を使って専門用語・熟語を学ぶ。 1. 教材中にでてくる薬学関連の英文を読み、その内容を説明できる。(☆) 2. 教材中にでてくる薬の投薬方法や副作用等について英文で説明できる。(☆) 3. 教材中で使われた語彙を列挙できる。(☆) 【対話・議論型授業】 事前学習：事前に連絡した「くすり」について調べておくこと。 事後学習：授業内容を復習すること。
11/4	金	4	外国語学科英語分野	ジェームズ ホップス 教授	薬学英語、科学英語をまとめた教材を使い、薬学領域で使われる専門用語を発音とともに学ぶ。 1. 専門用語を語根、接尾辞などの構成要素に分けることができる。(☆) 2. よく使われる構成要素の意味を英語で説明できる。(☆)

					<p>3. 英語の専門用語の意味を英語で説明できる。(☆)</p> <p>4. 語根、接尾辞などの構成要素を組み立てて専門用語を作ることができる。(☆)</p> <p>【対話・議論型授業】【その他(英語での講義)】</p> <p>事前学習：事前に指示する内容に取り組むこと。</p> <p>事後学習：授業資料を復習すること。</p>
11/15	火	3	外国語学科英語分野	ジェイムズ ホブス 教授	<p>薬学英語、科学英語をまとめた教材を使い、薬学領域で使われる専門用語を発音とともに学ぶ。</p> <p>1. 専門用語によく使われる接頭辞の意味を英語で説明できる。(☆)</p> <p>2. よく使われる接頭辞を含む専門用語の意味を英語で説明できる。(☆)</p> <p>3. 接頭辞も含めて、構成要素を組み立てて専門用語を作ることができる。</p> <p>4. 薬の投与経路を英語で説明できる。(☆)</p> <p>5. 主な薬剤クラスを英語で説明できる。(☆)</p> <p>【対話・議論型授業】【その他(英語での講義)】</p> <p>事前学習：前回の講義内容を復習すること。</p> <p>事後学習：授業内容を復習すること。また、配布した演習課題に取り組むこと。</p>
11/18	金	4	外国語学科英語分野	ジェイムズ ホブス 教授	<p>英語で書かれた薬の説明書や処方箋から、薬学英語の表現を学ぶ。</p> <p>1. 薬の名前(化学名/ジェネリック名(一般名)/販売名(商品名))を英語で説明できる。(☆)</p> <p>2. 服用方法、副作用など、薬の説明を英語で読み、内容を評価できる。(☆)</p> <p>【対話・議論型授業】【その他(英語での講義)】</p> <p>事前学習：前回の講義内容を復習すること。</p> <p>事後学習：授業内容を復習すること。</p>
11/25	金	3	外国語学科英語分野	ジェイムズ ホブス 教授	<p>英語で書かれた薬の説明書や処方箋から、薬学英語の表現を学ぶ。</p> <p>1. 英語の処方箋を読み、その内容を評価できる。(☆)</p> <p>2. 服用方法、副作用など、薬の説明を患者様にとって分かりやすい英語で説明できる。(☆)</p> <p>【対話・議論型授業】【その他(英語での講義)】</p>

					<p>事前学習：前回の講義内容を復習すること。</p> <p>事後学習：授業内容を復習すること。また、配布した演習課題に取り組むこと。</p>
12/2	金	2	薬物代謝動態学分野	寺島 潤 助教	<p>英語教材を使って薬学専門用語とその表現を学ぶ。</p> <p>1. 英語で書かれた薬の説明文書を読み、その内容を説明できる。(☆)</p> <p>2. 薬の体内での基本的な動きを英語で説明できる。(☆)</p> <p>【対話・議論型授業】</p> <p>事前学習：指定した薬について調べておくこと。</p> <p>事後学習：授業内容を復習すること。</p>
12/6	火	2	薬物代謝動態学分野	寺島 潤 助教	<p>英語教材を使って薬学専門用語とその表現を学ぶ。</p> <p>1. 英語で書かれた薬の説明文書を読み、その内容を説明できる。(☆)</p> <p>2. 薬の体内での基本的な動きを英語で説明できる。(☆)</p> <p>【対話・議論型授業】</p> <p>事前学習：指定した薬について調べておくこと。</p> <p>事後学習：授業内容を復習すること。</p>
12/9	金	2	生体防御学分野	白石 博久 特任教授	<p>薬学関連英語をまとめた教材を使い、薬学英语の表現を学ぶ。</p> <p>1. 英会話を聞いて、その内容を書き取り、説明できる。(☆)</p> <p>2. 医薬学関連の語彙を列挙できる。(☆)</p> <p>3. 英語論文（配布）の構成を説明できる。(☆)</p> <p>4. 英語論文のタイトルと要旨を説明できる。(☆)</p> <p>【対話・議論型授業】 【その他（レポート課題）】</p> <p>事前学習：指定した薬について調べておくこと。</p> <p>事後学習：授業内容を復習する。</p>
12/13	火	2	生体防御学分野	白石 博久 特任教授	<p>薬学関連英語をまとめた教材を使い、薬学英语の表現を学ぶ。</p> <p>1. 薬学関連の英文を読み、その内容を説明できる。(☆)</p> <p>2. 英会話を聞いて、その内容を書き取り、説明できる。(☆)</p> <p>3. 医薬学関連の語彙を列挙できる。(☆)</p>

					<p>4. 英語論文の内容を読解できる。 (☆) 【対話・議論型授業】【その他（レポート課題）】 事前学習：英文和訳のレポート課題に取り組む（提出〆切 12/13 講義開始時）。 事後学習：授業資料を復習すること。</p>
--	--	--	--	--	---

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	薬学英语 基本用語用例集	瀬谷 幸男 他	南雲堂フェニックス	2017

・成績評価方法

講義で課す小テストもしくはレポート課題（10%）と定期試験（90%）で評価する。
--

・特記事項・その他

<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、各担当教員がそれぞれの専門分野に対応した英語教材を用意し、配布する。 ・各コマに対して、事前学習と事後学習にそれぞれ 30 分程度を要する（レポート課題等も含まれる）。また定期試験前には 10 時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。 ・小テストやレポート課題に関する情報は、配布資料や Moodle 等を用いて学習者へ伝達・フィードバックする。 ・定期試験の後は、フィードバックとして moodle に概況・解説等を掲載する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	各担当教員所持のノートパソコン、タブレット	各 1	講義資料の提示